

第1回 宇都宮市宿泊税の導入に向けた検討委員会

■ **日時** 令和8年6月30日（火） 午後2時00分～午後3時30分

■ **場所** 宇都宮市役所本庁舎農業委員会室（7階）

■ **公開・非公開の別** 公開

■ **出席者**

1 委員

有識者	須賀 英之	委員
学識経験者	大嶋 淳俊	委員
宿泊団体	福田 治雄	委員
	柴田 昌志	委員
	福田 治久	委員
旅行関係事業者	郷 克也	委員
経済団体	松本 泰宏	委員
観光団体	鈴木 孝美	委員

2 事務局

- ・ 理財部長，理財部次長，税制課長，税制課職員3名
- ・ 魅力創造部長，魅力創造部次長，観光MICE推進課課長
観光MICE推進課職員6名

■ **傍聴者** 0人（記者は除く）

■ **会議経過**

1 開会

2 魅力創造部長挨拶

3 当委員会の設置について

- (1) 委員紹介について
- (2) 役員の選任について
設置要綱の規定に基づき，委員の互選により，会長及び副会長を選出

4 議事

事務局より資料に基づき、検討事項を説明

(会長)

- ・ 前半では、宇都宮市の観光・MICEの現状や課題、新たな観光振興財源の必要性、さらにその財源の使途のあり方についてご議論いただきたいと思います。

(D委員)

- ・ 横浜市においても、かつてカジノ誘致の議論があり、それに伴いラグジュアリーホテルの建設が相次いで進められました。結果的にカジノ計画そのものはなくなりましたが、ホテル建設は継続されており、現在は競争が激しくなっている状況です。一方で、昨日は箱根町における宿泊税導入のニュースがありましたが、横浜市ではまだ具体的な動きは見られていません。やはり宇都宮市と同様に日帰り客が多いという共通点があると思います。ただし、宿泊施設については一定の稼働率が確保されていると考えており、その点も含めて両市には似ている部分があるのではないかと感じています。
- ・ 宿泊税を検討する際には、まず日帰り客から負担を求められないのかという議論が生じると思います。しかし、実際にどこで徴収するのか、どのように日帰り客を把握するのかといった課題があり、制度設計が難しい側面があり、そのため、多くの自治体では宿泊税を軸に検討が進められているのだと思います。
- ・ そのような中、観光振興のために活用できる自主財源を確保することは重要であると考えています。
- ・ ただし、財源を確保すること自体が目的ではなく、その財源を何に活用するのが重要です。個人的にはこうした事業を実施したいので、その財源として宿泊税を導入したいという形で説明したほうが、関係者や市民の理解も得やすく、議論も進めやすいのではないかと考えています。

(副会長)

- ・ デジタルマーケティングの観点からお話しさせていただきたいと思います。
- ・ 資料の中でもいわゆる攻めの観光振興が示されていましたが、その実現のためには、まずはデータを収集し、的確に分析できる体制を整備しておくことが必要ではないかと考えています。
- ・ そのような基盤がなければ、効果的な戦略も生まれないと思います。
- ・ 資料9ページにおいても、戦略的な施策の実現に向けたトレンドを捉えるためのデータ収集・活用が挙げられていましたが、宇都宮市や宇都宮観光コンベンション協会においても、さまざまな取組が進められているものと認識しております。

- ・ また、昨年度には私どもも関連分野の調査・研究に携わらせていただき、ベースとなる環境は徐々に整備されつつあると感じていますが、恒常的に実施していくためには予算措置や推進体制の整備が必要になると考えます。
- ・ その体制を整備するためには相応のリソースの確保が求められるでしょう。
- ・ また、単にデジタルプラットフォームを導入するだけでは十分ではなく、そのデータを分析・運用し、そこから戦略を立案できる人材の育成も重要です。
- ・ そのような専門人材を長期的な視点で確保・育成していくことも必要ではないかと考えています。
- ・ 最後に、別の観点から申し上げますと、昨年から今年にかけて国際学会に参加する機会がありました。
- ・ その中で、M I C E の分野については、ヨーロッパ諸国はもとより、ベトナムやタイなどアジア諸国においても大変力を入れていることを実感しました。
- ・ こうした海外都市の先進的な取組や成功事例から学び、その知見を宇都宮市の施策に反映していくことも重要ではないかと考えています。

(F 委員)

- ・ 観光とM I C E ・コンベンションの両輪でさまざまな事業に取り組んでおりますが、依然として多くの課題があると認識しております。観光分野では、餃子の知名度が全国的に高く、観光入込客の6～7割程度が餃子を目的に来訪されている状況です。
- ・ これは宇都宮市の大きな強みであり、まずは餃子をフックとして宇都宮を訪れていただき、その上で市内の新たな魅力を知っていただけるようさまざまな取組を進めておりますが、一方で、来訪者の市内周遊促進は依然として課題となっています。
- ・ また、インバウンドについても、多くの訪日外国人旅行者が日光方面へ向かうものの、宇都宮駅の改札から出ないケースが少なくありません。そのため、宇都宮駅で降りていただき、市内を訪れていただけるような仕掛けづくりを進めているところです。
- ・ M I C E 分野につきましては、令和4年にライトキューブが開業して以降、開催件数や消費額などは順調に伸びているところではありますが、まちなかの受入環境には、なお課題があると考えています。
- ・ 特にナイトタイムコンテンツの充実は重要な課題です。
- ・ 学会後に参加者が市内で食事や交流を楽しめる環境づくりに加え、多言語対応や食の多様性への対応なども喫緊に取り組むべき課題であると認識しています。
- ・ また、M I C E の開催地として選ばれるためには、宇都宮で開催する魅力を明確に示していく必要があります。

- ・ その魅力をどう創出していこうかというところで、広域的な連携も含めながら地域の魅力向上に取り組んでいるところです。
- ・ さらに、現在は市内34団体に参画いただくMICEネットワークを組織し、多様な分野や業種の方々と連携しながら事業を進めています。
- ・ しかしながら、こうしたステークホルダー間の連携についても、今後さらに強化していく必要があると考えています。
- ・ このような中、観光やMICEのいずれにおいても、来訪者の皆様に宇都宮を十分に楽しんでもいただき、快適に滞在していただくという意味では、滞在環境のさらなる充実が必要であり、特に宿泊施設については、ビジネス利用への対応は進んでいるものの、VIP層が利用できる客室や、家族連れが滞在しやすい施設については、まだ充実の余地があると感じています。
- ・ また、大通り沿いの宿泊施設では、客室の静寂性に関する要望も聞かれるほか、より高速で安定したWi-Fi環境の整備なども必要だと考えています。
- ・ このように、来訪者により快適に過ごしていただくためには多くの課題が存在しているのかなと考えていますので、そうした課題への対応を進めていく上で、宿泊税を含めた新たな観光振興財源を確保できることは、非常に望ましいことと思っております。
- ・ 最近では、中心市街地においても外国人観光客を目にする機会がかなり増えてきたと感じていますが、統計データを見ると、インバウンド旅行者については、東京方面から訪れた場合でも、その約4分の3は日光方面へ向かっており、宇都宮市内に立ち寄る割合はまだ限定的な状況です。
- ・ そのため、引き続きインバウンドの誘客については課題があると認識しています。
- ・ 一方で、MICE分野、とりわけ国際会議や国際学会については、開催地として選ばれれば海外からの参加者にも確実に宇都宮へお越しいただけるということになりますので、現在は国際会議や国際学会の誘致に力を入れ始めているところです。現状としては、そのような状況です。

(C委員)

- ・ 様々な視点があると思いますが、資料では宿泊を伴う本市への来訪について、今後も、十分な伸び代が見込まれると整理されていますが、現場感覚としては、今年、とりわけ今月の状況は、コロナ禍以降のここ4、5年の中でも最も厳しいのではないかと感じています。
- ・ その背景には、企業の業績動向など、様々な要因があると思うのですが、宇都宮市の場合、MICEやスポーツツーリズム、スポーツコンベンション以外の宿泊需要は、どうしても大きな企業へ頼ることになります。
- ・ 私自身、リーマンショック時も経験していますが、自動車関連企業が一斉に出張を控えたことで、宿泊施設の稼働率が大幅に落ち込んだことがあります。

- ・ もちろん、現在は当時ほどの状況ではありませんが、少なくとも今年6月については、資料に記載されている内容とは別に、数値的に見るとそのようなことはないかもしれませんが、現場の肌感覚としては厳しい状況にあると感じています。
- ・ また、資料6ページに記載されています強みとして、宿泊施設やM I C E環境が挙げられていますが、確かに豊富であるものの、ライトキューブの関係者とお話しする中ではライトキューブ単体で見た場合、令和7年度以降の利用件数については、周辺環境の変化なども踏まえると、やや頭打ちに近い状況が見られるようにも感じています。
- ・ これは今回の宿泊税の議論とは、別のテーマかもしれませんが、ライトキューブ周辺には活用可能な土地もありますよね。
- ・ 観光・M I C Eで来訪した人に課税することを考えると、市として別の支援策も検討していただければと思います。
- ・ 例えば、ラグジュアリーホテルが建設されればいいですが、それに限定せず、ライトキューブ周辺のホテルなどでパーティー・レセプションを開催しやすいように施設整備への後方支援を実施することも、ぜひ、ご検討いただければと思います。
- ・ ライトキューブは、パーティーなどの開催がやりづらくなっておりますので、そのような点を克服できるような改善策につなげると宿泊需要の拡大にも直結すると考えます。
- ・ 駅が近いという立地から、実際に帰ってしまう方が多いです。
- ・ 実際に、関東圏の各種団体の会議などでは日帰りとなるケースが少なくありません。
- ・ 例えば、茨城県や群馬県であればもちろん、神奈川県からでも日帰りが可能です。
- ・ そのため、参加者をいかに滞在していただくかという視点が重要であり、そのための後方支援策があっても良いのではないかと考えています。
- ・ また、宿泊施設については、先ほどもお話がありましたが、宿泊施設のバリエーションや滞在環境の快適性向上が重要です。
- ・ 資料7ページにもハード・ソフト両面の取組が示されていますが、他自治体でも実施されているような、観光やM I C Eに対応した宿泊施設の高付加価値化に対する補助制度については、業界としても宿泊税を導入するのであれば、おそらく条件のようなものになってくると考えています。
- ・ 現状では、業界として賛否を含めさまざまな意見がありますが、どちらかといえばマイナスなイメージの方が多いのが実情かもしれません。
- ・ そのイメージを払拭するための重要な条件の一つになると考えております。

(A委員)

- ・ まず、議論が宿泊税の話になっていますが、私ども宿泊業界としては、かつて特別地方消費税が課されていた時期を経験しております。

- ・ その後、制度が廃止され、宿泊料金体系も分かりやすくなり、現場としてはすっきりしたという感覚を持っています。
- ・ その上で申し上げますと、宇都宮市では宿泊税という形で議論されていますが、私が委員として参加している栃木県の委員会は財源検討委員会という名称になっており、宿泊税とは位置付けられていません。
- ・ つまり、県の議論はまず観光振興のための財源をどう確保するかという観点から始まっており、徴収方法を宿泊税に限定してはおりません。私としては本来であれば宿泊税というよりも観光税だと思っています。
- ・ 宿泊税としてしまうと、宿泊事業者が徴収主体となり、果たして宿泊施設がどのように徴収を行うのが課題であると考えております。
- ・ 宿泊税になった場合、徴収に係る手間が大変だなという風に感じています。

(C委員)

- ・ 先ほども触れさせていただきましたが、ライトキューブが整備される以前は、総合文化センターや宇都宮市文化会館などが主な会場でしたので、地理的な条件も全く無関係ではないと思いますが、会議を開催した後にホテルへ移動して懇親会等を行うというケースが多く見られましたし、現在でもそのような利用形態は見られます。
- ・ 一方で、ライトキューブについては、せっかく整備された施設ですので、会議だけでなく祝賀会や懇親会まで同じ施設内で完結できることが望ましいとは思いますが、実際に利用する立場からすると、使い勝手の面では課題があると感じます。
- ・ 私自身も参加者として利用する機会が多く、何度も利用してきました。例えば8月のような暑い時期に、全国から参加者が集まる式典や会議があり、その後に懇親会を開催する場合を考えますと、料理をどこに保管しておくかといった課題が出てきます。
- ・ 式典から懇親会という流れの場合、懇親会の準備は短時間で行わなければならないと、非常に多くの人手が必要になります。
- ・ その短時間での準備に対応するために必要なスタッフを確保しようとすると、懇親会で提供する料理そのものの費用以上に人件費などのコストがかかってしまうこともあります。
- ・ その結果として、最終的にはお客様の満足度に影響する可能性があり、一時的であっても満足度が低下し、それが施設や開催地である宇都宮市に対する評価にもつながりかねません。
- ・ その点については、以前から課題として感じているところです。

(A委員)

- ・ J R宇都宮駅西口にあるホテルや総合文化センターは、ライトキューブが開業された影響で会議の開催件数は少なくなっています。

(B 委員)

- 先ほどもお話がありましたが、宿泊の状況については、ここ数年の中でも特に厳しい数字になっているのではないかと感じております。
- 先日、ホテル旅館協同組合の役員会が開催されましたが、その際に役員の皆様から最も多く寄せられた意見は、宿泊税を導入する場合の活用方法についてでした。
- 要は宿泊税を徴収して、その財源をどのように活用するのが最も興味深いところでありまして、宿泊事業者の立場からは、目に見える形で効果を実感できる活用策を望む声があり、ハード面に対する助成などが役員会の中で特に話題となっております。
- 公共的な宿泊施設における宿泊利用と会議利用については、現在、概ね同程度の割合となっております。
- ライトキューブが整備されて以降、当施設の会議室利用については若干減少したのではないかと印象を持っています。
- ただ、その点については明確な分析をしているわけではありませんので、具体的な影響については分からない部分もあります。
- いずれにしても、ライトキューブの開業が一定の影響を与えている可能性はあるのではないかと考えています。
- また、当施設では学生の利用が非常に多く、全体の約6割を占めています。
- 残りの約4割が家族連れや一般のお客様となっており、現在は学生の宿泊が大きな割合を占める状況となっております。
- 栃木県内には全国規模の大会や合宿等で利用される施設が数多く整備されており、それらを目的として県外から訪れる方が大幅に増えていると感じています。
- 特に、「カンセキスタジアムとちぎ」をはじめとする総合運動公園のスポーツ施設を利用する学生の来訪が増加しています。

(E 委員)

- 課題ということでございますが、宇都宮市はやはり餃子のイメージが圧倒的に強いと感じていますが、宇都宮には餃子以外にも、ジャズ、カクテル、大谷地域など、全国に誇ることのできる魅力的な資源がありますので、こうした多様な魅力をいかに効果的に発信していくかが重要であると考えています。
- また、先ほど、F委員からもお話がありましたが、宇都宮が通過点となっており、インバウンドが十分に市内へ立ち寄らず、消費につながないという傾向がありますので、飲食店をはじめとする地域事業者も含めてですが、いかに地域経済の中でお金が循環する観光都市をどのように実現していくかが重要であると考えています。
- 今回の新たな観光振興財源の検討については、先ほど目的に関するお話がありましたが、財源の活用目的を明確に示すことで、徴収される側も一

定の納得感を持っていただけるのではないかと思いますので、新たな財源の検討に当たっては、使途の明確化が重要なポイントになるのではないかと考えています。

(会長)

- ・ ライトキューブが開業してから4年が経過し、まもなく5年目を迎えますが、宇都宮市の場合は、やはり清原工業団地をはじめとする工業団地の需要や、自動車関連産業の需要が大きい地域であると認識しています。
- ・ もちろん、医療関係をはじめとするさまざまな需要もあると思いますが、開業時の人気から徐々に平常時の状況に戻りつつあるのか、それとも足元では大企業の景況感や企業活動の影響を受けている部分があるのか、そのあたりについてどのように見ていらっしゃいますか。

(F委員)

- ・ ライトキューブについて申し上げますと、全体の稼働率は概ね7割から8割程度と、非常に高い水準にあると認識しております。
- ・ その背景には、清原工業団地をはじめとする企業利用だけでなく、広く施設が認知されてきたことに伴って利用が定着してきたことがあると思います。
- ・ 特に会議室の稼働率は非常に高く、全体の稼働率を押し上げている要因の一つとなっています。
- ・ 一方で、施設を個別に見ていくと、平日における大ホールや中ホール、大会議室などについては、まだ利用拡大の余地があると考えていますので、今後はこれらの施設の稼働率をさらに高めていくことが課題であると認識しています。
- ・ 特にMICEの観点では、「E」のエキシビションですとか、各種イベントなどを平日に開催していただけるような誘致活動を進めることが重要ではないかと考えています。

(D委員)

- ・ やはり、日帰り客が多いことが大きな課題の一つとして挙げられていると思いますし、餃子という観光資源が非常に強力すぎるという話もありました。
- ・ 日帰り客が増えること自体は、望ましい面もありますが、一方で、ごみ処理をはじめとするさまざまな行政コストが発生します。
- ・ そのため、人が多く訪れているように見えても、必ずしも地域に十分な経済効果が残っているとは限らず、むしろ市の負担が増えているのではないかと面もあるので、来訪者をいかに宿泊につなげていくかが重要な課題であると考えています。
- ・ また、インバウンドについても、栃木県全体で見ると、観光消費額が

31,000円しかなく、全国順位も37位と低い状況にありますので、いかに、滞在型の観光地としていくか、その点にお金をかけてコンテンツの充実などに取り組んでいくことが重要ではないかと考えています。

(副会長)

- ・ 今、皆様のお話を伺いまして、まさにその通りだと感じました。
- ・ 特に、インバウンドについては、全国の自治体がいずれも誘客を狙っている分野であり、その中で、どのように宇都宮を選んでもらうかということが大きな課題だと思いますが、例えば、インバウンド旅行者がどのようなニーズを持って宇都宮を訪れているのか、また宿泊施設や飲食店の利用についてどのような評価や意見を持っているのかを把握することではないでしょうか。
- ・ 少し手前味噌になりますが、昨年度の共同研究では、こうした内容についてビッグデータを活用した分析を行い、さまざまな傾向を導きまして、例えば、アメリカからの旅行者はこうした点に関心が高い、あるいは文化的な背景によって求める体験やサービスに違いがあるといった傾向が見えてきています。
- ・ また、先ほど宿泊施設におけるWi-Fi環境のお話もありましたが、例えば高速Wi-Fi環境に加え、仕事がしやすい広めの机を備えた客室が評価されることなど、所得水準の高い利用者ほどそうした価値に対して追加の費用を支払う意向があるデータも実際に取れるので、このような情報を一つひとつ分析し、利用者ニーズを把握した上で戦略を立てていくことは、宿泊事業者の皆様にとっても有効ですし、お土産品の開発や販売に携わる事業者にとっても参考になるものと考えています。
- ・ また、こうした考え方はインバウンドに限らず、本当にインバウンドにフォーカスすべきなのか、それとも現在多く来訪しているビジネス客の満足度向上を図り、リピーターとして定着していただくことを優先すべきなのか、そのような判断についても、データ分析によって見えてくる部分が多くあります。
- ・ そのため、宿泊税をはじめとする新たな財源と様々な他の財源と組み合わせることで、今後の施策の方向性や次の施策がより明確になってくるのではないかと考えています。
- ・ 宇都宮市と宇都宮観光コンベンション協会とで取り組んだものです。

(会長)

- ・ 次に、新たな観光振興財源が必要とされる背景について、宇都宮市は比較的財政状況が良好な自治体であると言われることがある一方で、今後は社会保障費や国の地方財政制度の動向などもあり、財政運営は厳しいなど思っているのですが、どうでしょうか。

(魅力創造部次長)

- ・ 昨今の物価高騰や人件費の上昇などにより、行政においても観光分野に限らず、様々な分野で影響を受けている状況があります。
- ・ そのような中、宇都宮市に限った話ではありませんが、他の自治体においても、様々な施策を進めていくための財源の確保は、今後これまで以上に重要なものであると考えています。
- ・ 宇都宮市においては、資料でも SWOT 分析の結果をお示ししておりまして、攻めの観光振興という考え方についても、触れさせていただいております。
- ・ 特に現在、宇都宮市を取り巻く環境としては、ライトラインの開業により全国的な注目を集めていることに加え、ライトキューブの開業によって多くの来訪者を迎えられる環境が整いつつあり、また、国際 MICE の誘致や開催にも取り組み始めているところです。
- ・ このような、現在の宇都宮市に全国的な注目が集まっている状況にあり、まさに大きなチャンスを迎えていると捉えています。
- ・ そのため、このタイミングが大きなチャンスとして捉えており、この機会にさらに安定した観光に係る財源を確保し、また、観光は裾野の広い産業だと思っていますので、地域活性化を通じて魅力を高め、その結果として観光客や宿泊者の増加につなげていき、その効果が再び地域に還元されるという好循環を生み出していくことが重要であると考えており、今回の機会がひとつの大きな契機として捉えています。

(観光 M I C E 推進課長)

- ・ 観光につきましては、委員の皆様からご意見いただいたとおり、餃子が突出しております。
- ・ 餃子以外にも、ジャズ、カクテル、大谷地区をはじめ、その他様々な地域資源がございます。
- ・ そういった地域資源を広く多くの方に知っていただき、実際に周遊していただくことが重要であると考えております。
- ・ また、周遊に当たっては、日帰りだけではもったいなく、宿泊していただいた上で、ナイトタイムエコノミーとして夜のまちなかにも足を運んでいただき、滞在効果を高めることが、経済の発展につながる非常に重要な取組であると思っております。
- ・ そういった意味では、MICE で来訪された方を対象とした取組は一定程度ございますが、それ以外の日帰り観光客をいかに本市に取り込むかという点については、やはり滞在環境の向上が最も重要であると考えております。
- ・ そのためには、宿泊施設において多くの方に快適に過ごしていただくための環境整備が、まずは重要なのではないかと考えております。

(会長)

- ・ 宇都宮観光コンベンション協会のような組織においても、こうした財源があれば取り組んでみたいといったお考えや、何かアイデアがあればお聞かせいただきたいと思います。

(F 委員)

- ・ 例えばM I C Eについて申し上げますと、一定の条件はありますが、国内M I C Eでは最高300万円、国際M I C Eでは最高500万円の助成を行い、補助を通じて宇都宮に来ていただけるよう誘致・支援をしております。
- ・ 一方で、自治体によっては、市の補助に加えて県の補助もあるなど、非常に手厚い支援を実施しているところがございます。
- ・ そのような自治体は、やはり主催者から選ばれやすい傾向がありますので、宇都宮についても、主催者の方々に宇都宮は良い開催地だと感じていただけるような、手厚い支援ができるのではないかと考えております。
- ・ それは、補助金に限らず、様々な形で実施できるのではないかと考えております。
- ・ また、先ほども様々なご説明がありましたが、やはり人口減少が最も大きなネックであり、ボトルネックであると考えております。
- ・ 持続可能な発展をしていくためには、消費を拡大していくことが必要です。
- ・ このまま人口減少が進めば、消費も縮小していくことになります。そのため、交流人口や関係人口を増やし、多くの方に宇都宮へ来ていただき、消費していただくことが重要です。
- ・ それによって、まちづくりのための財源も生まれてくるものと考えております。
- ・ そうした意味では、観光やM I C Eは即効性も期待できる施策であり、非常に重要な取組であると考えております。
- ・ また、地域が稼ぐための一つのモデルにもなり得ると考えておりますので、その一つの方策として、こうした取組があるのではないかと考えています。

(会長)

- ・ では、現状の課題と財源が必要な背景、観光財源の使途についてお話しいただきたいと思います。

(C 委員)

- ・ 宇都宮市では観光M I C E、スポーツコンベンション、スポーツツーリズムと、三つの分野で部署を設けて取り組んでいただいております。

- ・ 特に、ライトキューブができてからの宿泊稼働率の上昇については、現場として非常に強く実感しておりますので、従来の企業業績による需要とは考え方が異なります。
- ・ 企業については、業績によって利用状況が変動しますが、スポーツやMICE、観光については、そうした需要の隙間を埋めていくことができます。
- ・ 官民がともに創出した来訪者から宿泊税をいただくのであれば、その来訪者を増やしていくことが必要です。
- ・ 私たちも、誘致活動などに取り組みますし、行政にも一緒に取り組んでいただくことが、宿泊税を導入する上での条件になってくるのではないかと思います。
- ・ そうした認識をしっかりと持って引き継いでいただきたいと思います。

(B委員)

- ・ 先ほど観光MICE推進課長から滞在環境の整備についてお話がありましたが、非常に重要なことだと思いますので、引き続き取り組んでいくことが大切だと考えております。

(C委員)

- ・ 例えばWi-Fiですが、当館では300万円ほど投資しており、おそらく宇都宮市内では客室や宴会場の通信環境は最も速い部類だと思います。
- ・ しかし、最初は、電話回線によるISDNでしたので、光回線になるまで何度も引き直しを行い、相当な費用がかかりました。
- ・ アメリカでは、Wi-Fiを有料サービスにできますが、日本では難しく、基本的には無料インフラとして提供しなければなりません。
- ・ 水道管や電線などは、適切に管理すれば30～40年使用できますが、Wi-Fi設備は5～6年毎に継続的な投資が必要です。
- ・ そして、こうしたインフラは宿泊施設や都市の評価に直結します。
- ・ 何気なく利用されている設備でも、ホテル側としては相応のコストを負担しているということをご認識いただきたいと思います。

(A委員)

- ・ ホテル旅館協同組合の立場で申し上げますと、宇都宮のホテル旅館協同組合は明治の頃からあり、かつては100軒ほど加盟していましたが、現在は30軒程度です。
- ・ 旅館が大幅に減少しているのが現状です。
- ・ また、宇都宮では火曜、水曜、木曜がビジネス客中心で、金曜、土曜はスポーツコンベンションや大会関係のお客が多いという特徴があります。

- ・ 以前は月曜日から金曜日までビジネス利用が多かったのですが、現在は金曜日に宿泊すると翌日は土曜日になるため、利用形態が変わっています。
- ・ 宿泊者数は、現在200万人程度ですが、国体後は減少するのではないかと考えていたものの、そのまま維持されています。
- ・ その背景としては、外国人宿泊者の増加が大きいと考えております。宇都宮でも増加していますし、那須については、年間約200万人の宿泊客がいると聞いております。那須もこれから宿泊税を導入する予定です。

(会長)

- ・ 日光は約310万人ですので、栃木県内では那須と宇都宮が2位を争っている状況ですが、内容はかなり異なります。
- ・ 宇都宮らしい使途を考えることが大切だと思います。
- ・ 財源確保の手法の検討とアンケートの実施についてご意見をいただきたいと思います。

(C委員)

- ・ このアンケートは、この会議との関係でこの期間に実施するという位置付けだったでしょうか。
- ・ 理想を言えば、すでに7月ですので、実施するなら7月の3連休や、あるいは8月のお盆の時期を含めた方がよいのではないかと思います。
- ・ 他都市でもこうしたアンケートは実施しているのだろうと思いますが、宿泊客から回答をいただくのは非常に大変ですので、何らかの景品などもあったほうが良いのではないかと思います。

(副会長)

- ・ お客様が多い時期に実施した方が効率的という考え方もありますが、一方で宿泊事業者の皆様にとっては非常に忙しい時期でもありますので、それほど混雑していない時期に丁寧に実施するという考え方もあると思います。
- ・ また、回答者への何らかの還元があることも一つの方法ですし、スタッフがお客様との会話の中でアンケートを活用し、本音を引き出す機会とすることも考えられます。
- ・ さらに、重要なのは、集めたデータをどのように分析するのかという設計です。過去のデータから仮説を立て、それに基づいて調査設計を行うことで、より有意義な結果が得られると思います。
- ・ こうした取組を通じて、将来的に事業者自身がアンケートを実施する際の能力向上にもつながるのではないかと考えております。

(会長)

- ・ 宿泊者向けは別として、宿泊事業者向けアンケートについてですが、組合の30社程度であれば、比較的实施しやすいでしょうか。

(B委員)

- ・ 事業者向けアンケートについては、夏休み前の時期が妥当ではないかと思います。夏休みに入るとかなり忙しくなりますので、その前が適切だと思います。
- ・ 宿泊者向けについては、夏休み期間であれば家族連れが多くなりますので、そうした層の意見を聞くことができると思います。
- ・ また、組合加盟施設は30社ほどですので、組合として取りまとめることは可能です。

(会長)

- ・ 大まかな宿泊者の内訳として、ビジネス客と観光客は年間を通じてどのような割合なのでしょう。
- ・ 夏休みになると観光客が多く、MICE関連やビジネス客からアンケートが取れないといった部分も発生するかどうかと思うのですが、いかがでしょうか。

(観光MICE推進課長)

- ・ 詳細な割合については手元に資料がありませんが、おそらくビジネス利用が多いと思われます。
- ・ ただし、夏休みなどの期間は比率がやや下がるのではないかという印象を持っています。

(会長)

- ・ ビジネス目的の学会参加者など、いわゆるMICE利用者と、企業訪問等を目的とする宿泊者をどのように区分するかについては、なかなか難しい面があります。
- ・ なお、ライトキューブでは利用者アンケートを実施しているようなので、それらのアンケートも活用しながら分析していくことが必要と考えられます。

(C委員)

- ・ 宿泊事業者へのアンケートについては問題ありませんが、実施前に説明の機会を設けていただきたいと思います。
- ・ 6月の総会で宿泊税の話題について簡単に説明したところ、出席者の反応としては、絶対反対が2施設、残りもどちらかといえば反対という状況でした。

- ・ 今後も業界全体として、対応していかなければなりませんので、丁寧に進めていく必要があると感じています。

(会長)

- ・ 徴収に伴うシステムやコストの問題もありますので、何の説明もなく負担だけお願いするというわけにはいきません。
- ・ また、委員会開催の都合上、7月、8月には実施していきたいなと検討しているのであれば、そのあたりについて何か工夫はありますか。

(観光M I C E 推進課長)

- ・ ご意見のとおり、事前に宿泊事業者の皆様と丁寧に意見交換を行い、理解促進を図ることが重要だと考えています。
- ・ アンケート実施に当たっても、趣旨や設問内容を事前に説明し、ご理解をいただいた上で進めたいと考えています。
- ・ 実施時期についても本日のご意見を踏まえ、より良い制度設計につながる実効性のある方法を検討してまいります。

(会長)

- ・ 那須町は、いつ頃どのようなアンケートを実施したのかという点は把握されているのでしょうか。

(観光M I C E 推進課長)

- ・ 那須町がアンケートを実施したかどうかについては公表されておりませんので、不明です。

(C委員)

- ・ アンケートは必ず実施しなければならないのですか。

(観光M I C E 推進課長)

- ・ 必ずしも実施しなければならないものではありません。

(会長)

- ・ 最終的には、総務省の同意手続がありますので、その際には何らかの資料が必要になると思います。また、仮に条例を制定する場合にはパブリックコメントも実施することになります。
- ・ 今回のアンケートについては、そのような行政手続とは別に、この委員会での検討の参考とするためのものと理解してよろしいでしょうか。

(観光M I C E 推進課長)

- ・ そのとおりです。

(会長)

- ・ 宿泊者アンケートについては、例えば観光客は8月、ビジネス利用者は秋といった形で分けて実施することも考えられるかもしれません。
- ・ コンベンション協会とも相談しながら進めていただければと思います。
- ・ それでは、11ページの財源確保の手法について、ご意見をいただきたいと思います。
- ・ 目的税の地方税として宿泊者にご負担いただく方式が、技術的には最も分かりやすいという説明でした。
- ・ 宿泊事業者には徴収義務者としてシステム面やコスト面での課題もありますが、この点についてご意見のある方はいらっしゃいますか。

(副会長)

- ・ ハード面というよりはソフト面の観点からお話しします。
- ・ 先行事例を見ますと、設備投資やラグジュアリーホテルの整備ありきといった観点は、現時点ではなかなか現実的ではないと思います。
- ・ そのため、観光コンテンツそのものの付加価値をいかに高めた上で、快適な周遊・滞在環境の向上につなげていくのかというストーリー性を持った視点が重要ではないかと考えています。
- ・ 例えば海外旅行では、自分で手配すれば比較的安価に旅行できますが、ホテルと観光施設、ガイドなどが一体となったパッケージ商品であれば、高い価格でも利用されることがあります。それは利便性や体験価値が高いからです。
- ・ つまり、宿泊施設単体ではなく、周辺の観光資源と結び付けながら、地域全体として楽しめる仕組みをつくることが重要だと思います。
- ・ 観光財源を活用して、そのような観光コンテンツの造成や企画、必要な設備整備を支援することも考えられるのではないのでしょうか。
- ・ また、その過程で事業者ノウハウが蓄積され、地域全体への波及効果も期待できるのではないかと考えます。
- ・ そのためには、やはりしっかりとデータ分析を行い、旅行者が何を求めているのかを把握しないことには、提供者側だけの思い込みで事業を設計しても十分な効果は得られません。
- ・ そうしたことも含めて検討していく必要があるのではないかと思います。
- ・ 少し質問の趣旨とは異なる観点だったかもしれませんが、海外ではそのような取組も増えておりますので、参考までに申し上げました。

(D委員)

- ・ 資料にもありますが、法定外税には遊漁税や宮島訪問税などさまざまなものがあります。
- ・ その中で、なぜ宿泊税なのかと問われたときに、宇都宮市として明確に説明できなければならないと思っています。

- 例えば宮島訪問税であれば、歴史文化遺産や世界遺産の保全のために徴収するという目的が明確です。
- 宇都宮の場合は餃子税でもよいのではないかといった議論になりかねません。
- そのため、宿泊環境の快適性向上や宿泊客の増加を目指すために宿泊税を導入するのだという、使途との明確なつながりが必要だと感じています。

(E 委員)

- まず、第一に、宿泊事業者の皆様にも過度な負担が生じない仕組みを構築することが重要だと考えております。
- また、宿泊税という名称で目的税を導入するのであれば、当然ながら宿泊関連事業への還元が優先されるべきであり、そのうえで観光振興への活用が検討されるものと理解しております。
- さらに、単に財源を確保するだけではなく、宿泊者数の増加や滞在時間の延長、さらには観光消費の拡大につながる施策に結び付いていくことが重要だと思っておりますので、よろしくお願いいたします。

(会長)

- 本日の資料についてご質問がある場合には、今後1週間以内を目途に事務局へお寄せいただきたいと思います。
- 事務局はいただいた質問とその回答については、委員の皆様にも共有していただくようお願いいたします。

(事務局)

- 会長、ご進行ありがとうございました。
- 先ほど話題に出ました議事録について簡単に説明させていただきます。
- 本日の議事録につきましては、後日事務局より議事録案として皆様の方に送付させていただきますので、内容をご確認の上、よろしくお願いいたします。
- 議事録については、ホームページ上でも公開する予定ですので、よろしくお願いいたします。
- 次回の日程につきましては、皆様の予定をお伺いしながら、事務局より改めてご通知いたしますので、よろしくお願いいたします。

(会長)

- 次回は、9月頃でしょうか。
- その前に、アンケートを実施することになると思いますので、その点については、会長、副会長にご一任いただければと思います。
- ホテル旅館協同組合の皆様にも、ご協力をお願いしたいと考えております。

(C委員)

- ・ おおよそのスケジュール感だけでも教えていただけますか。
- ・ 今年度中に何回開催する予定なのかといったことです。

(観光MICE推進課長)

- ・ 現時点では未確定ですが、今回を含めて5回程度開催したいと考えております。
- ・ 今年度末、来年3月までの期間ですので、概ね2か月に1回程度のペースを想定しております。

(事務局)

- ・ ほかにご質問等はございますでしょうか。
- ・ よろしいでしょうか。
- ・ それでは、以上をもちまして本日の委員会を終了いたします。皆様、お忙しい中ご出席いただきありがとうございました。
- ・ 今後の会議につきましても、ご協力賜りますようお願いいたします。
- ・ 本日は誠にありがとうございました。

5 その他

- ・ 事務局より、今後の会議開催についての考え方を説明。

6 閉会